

「あなたの見方」

～1つの方向ではもったいない～

創世記 16 : 1～16

青くてまだ熟れていない形の整ったバナナがあります。このバナナを見てあなたはどんな印象を持つでしょうか。同じバナナを見て、八百屋は「売れないなあ」と思いました。また、喫茶店の店主は「高いたろうな」そして画家は「美しい」と思いました。1つのバナナでも職業によってこのように受け取り方が変わってきます。このように私たちは人それぞれ、考え方や受け取り方が変わっていて、物事を見る時にとかく一方の方向からしか見ることができません。様々な方向からみることができるのに、ある程度固まった考え方があるものについては、そのようにしか見えなくなってしまうのです。しかし、神様は私たちをそのように見ていません。だから「先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。見よ。わたしは新しい事をする。」(イザヤ43:18,19)と語られているのです。今日の聖書の箇所(創16)を、それぞれの「目線」という点から見てみます。サライはこの時子供がいませんでした。この当時不妊は神の祝福を受けていない、呪われている状況でした。そのサライが、自分の状況が悪い時に奴隷の女にアブラムとの子どもを産ませようと決断しました。奴隷であるハガルは、最初はその命令に従い、子供を産みましたが、その後、サライを見下すようになってきました。(ハガルの目線)これに対してサライはアブラムに「ハガルが気に入らないのでどうにかしてほしい」と訴えます。(サライの目線)その時アブラムは「あなたの奴隷なのですから、あなたの好きなようにしなさい」と言います。(アブラムの目線)アブラムはサライのこを受け止めたのです。このように「信仰の父」と呼ばれたアブラムは、すぐに決断をするようなことをせず、いつも相手サイドの見方をしていました。しかし、アブラムも家長としての適切な判断を下せずにはいました。サライは、いつも目先のことばかりを見て決断していました。後に子供を産むと神に約束されていても、鼻で笑い、子供がない現状がとにかく嫌で、一時の決断で、このような行動をしてしまったのです。目先のことに目が向いていると一方の方向からしか物事が見えず後のことが考えられなくなります。サライはいつも一時のことしか考えられませんでした。ですから、ハガルに子どもが産まれるとサライはハガルをいじめました。いじめられたハガルは逃げました。そのハガルを主の使いがみつけて彼女に戻って身を低くするように言われました。ハガルの問題は傲慢だったからです。「そこで、彼女は自分に語りかけられた主の名を『あなたはエル・ロイ。』と呼んだ。それは、『ご覧になる方のうしろを私が見て、なおもここにいるとは。』と彼女が言ったからである。」(創16:13)神様はいつも私たちのことを後ろから追いかけています。神様はいつも私たちを後ろから見ていて、たとえまちがっていたとしても正しい道を教えてくれます。このように失敗した人を神は決して見放しません。あなたはこれまで自分のやってきたことを覚えていますか。しかし人は忘れてしまいます。だから聖書があるのです。3通りの目線から私達の過去の失敗を神様は教えようとして下さっています。神も悪魔もあなたに御言葉を語ります。しかし神はあなたのためにしますが、悪魔は自分のためにします。これさえわかればどちらの声なのか聞き分けられます。神様は私たちを惑わすようなことはしません。言われることは一つです。しかし悪魔が語りかけることは私達の決断を惑わせます。私たちの見方を変えるために

①悪い時に決断しない。 マイナスの時に出した結論はどう考えてもマイナスです。ですから悪い時の結論はよくないです。一つの方向からしか見ないのでは物事の本質はわかりません。だからこそ悪いときには絶対に決断しないでください。悪いときには耐え忍んでください。「忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」(ローマ5:4)今悪い状況であるならば、しっかり周りが見えるようになるまで待ちましょう。

②妥協しない。 自分はこうなると決めたら妥協しないで下さい。協調してください。

③神の目線を見る。 神の目線で見ている人は神の素晴らしい計画、祝福が起こります。悪い決断をして失敗した人でも神の目線に立ち返って良い決断をしたのなら、神はその決断を通してあなたもあなたの周りも祝福されます。ハガルは自分の傲慢な心を悔い改めて神の目線に立ち返ることができたので神はその決断を通してハガルもハガルの周りも祝福しました。妥協の上での決断で実った実がイシュマエルでしたが、そのイシュマエルも「イシュマエルの子孫は砂のようになる」とアブラムにした同じ約束を神様はなさいました。しかし、'イシュマエル'は妥協という意味です。彼の生涯そして子孫はイスラエル人(アブラハムの子孫)に逆らう事になってしまったのです。妥協ゆえに争いが起き今日まで続いています。これが罪のプロセスなのです。妥協から派生するものから罪が生まれるのです。だから種は正しくまかなくてははいけないのです。しっかりとした目線を持ちなるべく失敗をしないように種まきをしなくてははいけないのです。妥協していないか、先のことを見ず自分の目で、あなたの人生を判断していないかどうか、神の目線で判断しているかどうか、そのうえで、隣人を神の目線で見ているかどうか確認してみましょう。今日の聖書の箇所で、ハガルが神に従いサライのもとに帰ったそこから「ベエル・ラハイ・ロイ」神の祝福がうまれるようになったのです。ヤコブも、「ベエル・ラハイ・ロイ」から帰った時にリベカと出会いました。このように神に従っているものには、祝福が後から追ってくるのです。あなたは何かと置き換えて妥協していませんか。妥協と協調はちがいます。妥協しているとすべき事を喜んですることができません。神は強いられる方ではありません。もし今神がせよと言われる事を喜んでできていないのなら妥協の心があるのかもしれない。何かを通して神を見ているのならそれは違います。一見従っているように見えますが、これは神に従っているのではないのです。神は何かを通して見るものではありません。あなたが直接みるものです。そしてあなたが神の目線で見るなら都合のよいところだけで使ってはいけません。自分もそのように見るといふのなら、隣人もそのようにみなければ、見失ってしまいます。自分も神の目線で見られたいのならあなたも神の目線で見てあげることです。神はあなたの周りがいつも「ベエル・ラハイ・ロイ」となることを願っておられます。